



1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る 第25回(12/4) 竹内比呂也先生推薦 ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

Book1 変わりゆく大学図書館

编者: 逸村裕, 竹内比呂也 出版社: 勁草書房

コメント: 2005年に出版された大学図書館に関する概説書である。電子情報環境下において大学図書館の機能が大きく変わろうとしている中で、日本の大学図書館のこれからの方向性、展開が必要なサービスのあり方、マネジメントについて論じている。大学図書館に関する代表的な概説書はほぼ10年ごとに出ているが、この本は今世紀初頭の大学図書館の課題を的確に描き出している。编者の一人としては、そろそろ次の本を出さないといけないと考えている。

Book2 図書館はまちの真ん中

著者: 竹内比呂也, 豊田高広, 平野雅彦 出版社: 勁草書房

コメント: 静岡市御幸町図書館の計画策定プロセスを軸に、市民の課題解決を支援する新しい公共図書館像を提案する著作である。公共図書館計画の単なる実践記録のように見えるが、議論されている内容は、今後の公共図書館機能を考えていく上で不可欠のエッセンスを含んでいる。このようなエスノグラフィックな公共図書館活動の記録は、これまでもいくつかの著作としてまとめられているが、2000年代初頭における日本の公共図書館の姿と今後の方向性を考える上では唯一の著作である。

Book3 学びの空間が大学を変える: ラーニングスタジオ, ラーニングコモンズ, コミュニケーションスペースの展開

著者: 山内祐平ほか 出版社: ボイックス株式会社

コメント: 高等教育改革、あるいは授業環境の改善に関しては日本の第一人者である山内祐平先生がまとめられた著作。大学教育における図書館の役割についても、1章をさいて論述されている。授業環境や学習環境の変化に関して日本の最新の考え方や取り組みを知るための必読書。

Book4 ラーニング・コモンズ

編集: 加藤信哉 小山憲司 出版社: 勁草書房

コメント: これからの大学図書館について、特に大学における教育、学習との関わりにおいて大学図書館が果たすべき機能について、米国の事例を紹介する論文の翻訳を中心にまとめられたタイムリーな著作。今日大学図書館にすでに設置されている、あるいは設置が計画されているラーニング・コモンズが単なる空間ではないことを示している。また、日本のラーニング・コモンズの整備状況についても、詳細な調査結果が掲載されている。

Book5 情報研究への道

編集: 上田修一 出版社: 勁草書房

コメント: 図書館学が図書館情報学へと変容していく中で、その理論基盤を構築した基本論文をあつめた翻訳論文集。図書館が関わっている学術情報の世界がいかに広がりを示している。また今日研究評価等で盛んに使われている引用文献分析については、図書館情報学の領域でかなり早い時期に手法の開発がなされたこと、図書館において実践的にそれが応用されてきたことがわかる。

